


浸染用防染糊 K R

<GHS 規定 ラベル要素 >

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 危険 </div>  <p>国連分類：該当しない</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 応急処置 </div> <p>気分が悪いときは、医師に連絡すること。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断 / 手当を受けること。 目に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。 次にコンタクトレンズを使用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断 / 手当を受けること。</p>
<p>飲み込むと有害のおそれ 発癌のおそれ</p> <p style="text-align: right;">法定成分 シリカ 0.2% 未満</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 保管 </div> <p>容器を密閉して、換気の良い場所で保管する。 施錠して保管すること。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 安全対策 </div> <p>保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。 ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーを吸入しないこと。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 指定された個人用保護具を着用すること。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 廃棄 </div> <p>内容物を規制に従い、適正に廃棄すること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 一般注意 </div> <p>医学的な助言が必要な時には、製品容器やラベルを持っていくこと。 子供の手の届かないところにおくこと。 使用前にラベルをよく読むこと。</p>

- < 浸染用防染糊 K R の性質 > P 2 - 1
- < 基本工程 > P 2 - 2
- < シリアス染料で綿・麻を防染する場合の染め方 > P 3 - 1
- < デルクス・イルガラン・ラナセット染料で絹を防染する場合の染め方 > P 3 - 2
- < 植物染料で先媒染布を防染する場合の染め方 > P 4 - 1
- < スレン染料で綿を防染する場合の染め方 > P 4 - 2

P 2 - 1 < 浸染用防染糊 K R の性質 >

- ・冷水には溶けますが、湯で固まる特殊な糊です。
放置しておくると固くなりますが、攪拌すると軟らかく滑らかな糊になります。
- ・約 55℃で固まりますが、防染力の点で、60～80℃で染色します。
- ・湯で硬いカンテン状に固まります。強く折り曲げたり硬いもので引っかくと、亀裂や剥離の恐れがありますので、やさしく取り扱ってください。
- ・「染色の温度が高いほど」「染色時間が長いほど」「染料濃度が高いほど」濃く染まるのですが、防染糊を通して色がかぶりやすくなります。防染を確実にするには、できるだけ防染糊を厚く塗布し、染色時の温度・時間・濃度を低目・短め・薄めに調節します。
- ・染色後は冷水で洗い流します。湯では全く溶けません。冷水であっても徐々に溶解してゆきますので、時間をかけしっかり洗い流してください。水洗不足の場合は、糊が残り防染部分が硬くなりますので、もう一度洗い直してください。

P 2 - 2 < 基本工程 > ①～⑤まではいずれの染料も同じです

- ①布を地張りし、浸染用防染糊 K R をよく攪拌してから、型紙を使って糊置きします。
※厚手の型紙で糊を厚く塗布した方が防染力が強くなります。
※筒描きする場合は、描く線の太さや布の厚さに応じ、水を加え適当な粘度に調節します。粘度が高すぎると布への浸透が悪く盛り上がるため、染色中に剥離しやすくなります、粘度が低すぎると、にじんで線が太くなったり、防染力が低下します。
- ②糊が乾いたら、地張りから剥がします。すぐ染めない場合は、ポリ袋・ラップ等で包んで保存します。包まずそのまま放置すると、徐々に糊の皮膜が硬くなり、割れやすくなります。
- ③防染布を 60～80℃の湯に 1 分程浸け、浸染用防染糊 K R の皮膜を吸水させ、軟らかくします。
(これ以降染色が終了するまでは、防染布は常に 60℃以上の湯または染色液に浸かるようにします。
空気中に出ていると布が冷え、糊が溶け出してしまいます。)
- ④60～80℃の染液を作っておき、湯から引き上げた防染布を手早く染液に浸けます。防染布が浮き上がらないよう注意して、液中で 3～10 分染めます。
- ⑤防染布を引き上げ、水を替えながらしっかり水洗し、浸染用防染糊 K R を洗い落します。
軟らかい刷毛・ブラシ・スポンジ等で擦ると速く除去できます。
- ⑥浸染用防染糊 K R が完全に落ちたら、染料に応じた処理をした後、乾燥・仕上げます。

P 3-1 < シリアス染料で綿・麻を防染する場合の染め方 >

湯 (60～80℃)	布の重さの 100 倍量
シリアス染料 10g/L 液	布の重さの同量～5 倍量 (染めたい濃さで調整)
無水芒硝	布の重さの同量～倍量 (10～20g/L)

- ①あらかじめ熱湯で溶解したシリアス染料液を染めたい濃度に応じて適量湯に加え、吸収促進のため無水芒硝を加え、溶解し染液を作ります。
- ②湯に浸けておいた防染布を引き上げ、手早く染液に入れ 60～80℃で 5～10 分染めます。好みの色になれば引き上げ染色を終了します。色が薄い場合や色相を変えたい場合は、途中で溶かした染料を適量追加して染色します。
- ③染色後水洗し、糊が落ちたら、水 1L 当り酢酸 80%を 2ml 加えた液に布を 30 秒から～1 分程浸け、水洗せず絞って乾燥します。
仕上がりを確認し、染め重ね等の必要なく完成の場合は、タナフィックス N ニューでフィックス処理して仕上げます。
染め重ねる場合は、30～50℃の低温で染色します。高温では先に染めた色が溶け出し、白場を汚染する場合があります。

注：シリアス染料で淡色やボカシ染等で下染めした布に浸染用防染糊 KR を糊置き (伏せ) し、濃い色を染め重ねる方法も可能ですが、浸染用防染糊 KR で伏せした部分の下染めの色が糊に吸い取られ淡くなってしまいます。又、下染めの色を伏せるため、染色中に下染めの色と染め重ねた色の配色調和が確認できず、思い通りの配色が得にくい欠点があります。

注：シリアス染料で絹も染めることができます。その場合は、無水芒硝の代わりに、酢酸 80%を布の重さの 20～50%使用し、絹と同様の工程で染めます。

P 3-2 < デルクス・イルガラン・ラナセット染料で絹を防染する場合の染め方 >

湯 (60～80℃)	布の重さの 100 倍量
デルクス染料等 10g/L 液	布の重さの同量～5 倍量 (染めたい濃さで調整)
酢酸 80%	布の重さ 20～50% (淡色染めはアニノール PH5)

- ①あらかじめ熱湯で溶解したデルクス等の染料液を染めたい濃度に応じて適量湯に加え、吸収促進のため酢酸80%を加えた染液を作ります。淡色の場合、酢酸 80%では吸収が速すぎ染めムラになりやすいので、代わりにアニノール PH5 を使用します。
- ②湯に浸けておいた防染布を引き上げ、手早く染液に入れ 60～80℃で 5～10 分染めます。好みの色になれば引き上げ染色を終了します。色が薄い場合や色相を変えたい場合は、途中で溶かした染料を適量追加して染色します。必要に応じ、酢酸 80%も追加します。
- ③染色後水洗し、糊が落ちたら、水 1L 当り酢酸 80%を 2ml 加えた液に布を 30 秒から～1 分程浸け、水洗せず絞って乾燥します。
仕上がりを確認し、染め重ね等の必要なく完成の場合は、シルクフィックス 3 A でフィックス処理すると水に堅牢になります。
染め重ねる場合は、30～50℃の低温で染色します。高温では先に染めた色が溶け出し、白場を汚染する場合があります。

注：あらかじめ染料で下染めした布に浸染用防染糊 KR を糊置き (伏せ) し、濃い色を染め重ねる方法も可能ですが、浸染用防染糊 KR で伏せした部分の下染めの色が糊に吸い取られ淡くなってしまいます。又、下染めの色を伏せるため、染色中に下染めの色と染め重ねた色の配色調和が確認できず、思い通りの配色が得にくい欠点があります。
下染めした布を防染して染めたい場合は、下染め布を 60 分蒸してから浸染用防染糊 KR を糊置きすると色が淡くなるのが軽減できます。

P 4 - 1 < 植物染料で先媒染布を防染する場合の染め方 >

植物染料液 (60～80℃)	布の重さの 100 倍量
アニノール PH5	染液 1L 当り 2～5ml
又は 染色安定液	染液 1L 当り 5～10ml

※タンニン系染料は浸染用防染糊 K R を不溶化し、落ちなくなりますので、低濃度・短時間の染色にします。
※植物染料を煮出した染液の場合は pH を測り、pH4.5 以下の場合はソーダ灰で pH 5 に中和しておきます。
※花びらや実に含まれるアントシアン色素の場合は、この方法は適しません。

- ①浸染用媒染液又は、天然媒染液で繊維の種類に応じ、正しく先媒染した布を準備します。
- ②液体植物染料を適量湯に加えるか、適当な濃度で煮出した染料液に pH を 5 にするためアニノール PH5 又は、染色安定液を加えた染液を作ります。温度は 60～80℃に保ちます。
- ③湯に浸けておいた防染布を引き上げ、手早く染液に入れ 60～80℃で 3～5 分染めます。好みの色になれば引き上げ染色を終了します。濃色で長時間染めると浸染用防染糊 K R が固まり落ちなくなります。特にタンニン系の植物染料は不溶化する効果が大きいので注意してください。
- ④染色後水洗し、糊が落ちたら、60～80℃の湯で洗い、未固着染料を洗い流します。色が出た場合は湯を替えながら、色が出るのが少なくなるまで洗います。
染め重ねる場合は、30～50℃の低温で染色します。高温では先に染めた色が溶け出し白場を汚染する場合があります。

注：先媒染又は後媒染で植物染料を下染めした布に、浸染用防染糊 K R を糊置き（伏せ）し、濃い色を染め重ねる方法も可能ですが、浸染用防染糊 K R で伏せた部分の下染めの色が糊に吸い取られ、かなり淡くなってしまいます。

注：防染糊が固まった場合は、水 1L 当り 5g のソーダ灰を溶かした液に布を浸けておくと糊は落ちますが、染色布の色も薄くなったり、変色する場合があります。

P 4 - 2 < スレン染料で綿を防染する場合の染め方 >

湯 (60～70℃)	布の重さの 100 倍量
ネオスレン染料	布の重さの 10～50% (染めたい濃さで調整)
(又は、スレン染料)	布の重さの 1～5% (染めたい濃さで調整)
ネオソーダ	湯 1L 当り 15ml
ハイドロ	湯 1L 当り 5g

※スレンピンク R ニュー及びネオスレンピンク C-R ニューは、75～80℃の湯で溶解し、黄色いになってから使用する。

- ①70℃の湯にネオスレン染料又はスレン染料とネオソーダを加え、攪拌し分散させたら、ハイドロを加え静かに攪拌すると色が変り還元溶解します。淡色染めの場合は、スレン均染剤 A C N を最後に加えます。
- ②湯に浸けておいた防染布を引き上げ、手早く染液に入れ 60～70℃で 5～10 分染めます。
- ③染色後水洗し、糊が落ちたら、10～30 分空気酸化し、発色させます。染め重ねる場合は、還元溶解したスレン染料液に袋で包んだ氷又は凍らせた保冷剤を入れ 30℃以下に冷やしてから染めます。
- ④ソーピング剤 A S N でソーピングし、水洗・乾燥します。

注：スレン染料で下染めした布に浸染用防染糊 K R を糊置き（伏せ）し、濃い色を染め重ねる方法も可能ですが、下染めしたスレン染料が K 法や W 法が適した親和性の低い色の場合、高温の染色により下染めの色が流れ出し、防染して染め重ねた色の単独に近い発色になる場合があります。